水光山　大應寺

所在地：　埼玉県富士見市水子１７６５

宗旨・宗教：　真言宗智山派　（総本山は、京都の智積院）
本尊：　不動明王

＜道路より鐘楼門・本堂を見る＞↑

■創建

　水光山大応寺は立派な山門をもつ古寺で、真言宗智山派（総本山は京都智積院）に属しています。創建は不詳ですが室町時代の開山の祖が天文１７年（１５４８）没して以来、３４世を数えると言われます。

　富士見市史には・・・

草創年代は明らかでないが、寺の過去帳に「法印賢憲　天文十七年示寂」とあり、下っても戦国時代には存在したことを示している。中興開山は宥勝（貞享二年六月二九旦小寂）とのことである（新編武蔵風土記稿）。この人物は、江戸時代初期の醍醐寺報恩院末寺に「武州入間郡水子村大応寺　宥勝（花押）」とあることでその実在が確認できる。

・・・と記載されています。

■由来（「ふじみの伝説・昔ばなし」から）

大応寺は、開創も八百年は溯ると言われていますが、古い寺歴を伺わせる一つの伝説があります。

夜になると池の水面が光りだすので、不思議に思っていると、旅の僧が原因は底にあるというのでさらってみると、一体の仏像を発見しました。村人は旅僧の言葉に従って、仏像を本尊に一寺を建立して、水光山大応寺としました。旅の僧は**弘法大師**だったといわれています。池の水は涸れましたが、池畔に祀られている琵琶を弾く**弁才天**は、田中善左エ門「於喜与」と女性の名を刻んだ珍しいものです。

弁財天の前、涸れた湧水池

本　堂

↑本堂は寛政元年（１７８９）に建てられたものが、平成２１年（２００９）に建て替えられました。

山岡鉄舟筆「水光山」の額↓

鐘楼門

鐘楼門は享保4 年(1719)造立されたもので、朱色の回廊の見える上層部が鐘撞堂になっています。近隣にもあまり見かけない鐘楼門です。

↑コンクリートの釣鐘
なんのため、
いつ造られたでしょうか？
・・・戦争中のことです

大應寺のパンフレットの抜粋です。

水光山 大應寺

当山は、水光山不動院大應寺と称し、真言宗智山派に所属す。総本山は、京都の智積院、大本山は、成田山、川崎大師、高尾山である。

本尊は、不動明王を中心とする不動三尊で、その他、両祖大師、薬師如来、地蔵菩薩、観世音菩薩、愛染明王等を安置す。創建は、不詳なれども、開山の祖、賢憲(天文十七年寂)以来、二十四世、中興の祖、宥勝(貞享二年寂)以来、二十一世を数える。何度か大火にあうも享保四年賢隆代鐘楼門を造立し、寛政元年恵旦代本堂再建す。その後、昭和三十六年本堂改修、四十五年鐘楼門改修、五十四年客殿庫裏が檀信徒の協賛により建立された。そして、五十九年修行大師像建立、六十一年旧寺務所、平成五年薬師堂及び斎場が建立、平成十年観音堂及び斎場、平成二十一年新本堂が建立され現在に至る。山内には、山岡鉄舟筆「水光山」額のほか、十六善神、地獄図、両界曼荼羅、涅槃図、八祖大師図等を保管す。

【由来】

戦乱が続き世の中が乱れていた昔、空海上人当地に来る。里の人、上人に『当地に不思議な沼あり、水光りて木々赤く照らす。そのため皆木染という。』と。上人これを見ると、水子夫々光りを発し、美しさは言いようがないほどであった。上人発願して十七日、秘法を修す。満願になると、水子夫々円光を発し、曼荼羅を現す。中央の円光変じて大日如来となり、又変じて不動明王となる。上人感嘆して言う『大日應現の霊地なり』と。即ち一寺を建立して一刀三礼不動明王の尊像を刻み安置して水光山不動院大應寺と号し、此地を水子とす。たくさんの里人、その徳を慕い遠近より集まる。しかし、上人皆に言うには、『吾、幸に当山の霊地を発見して一寺を建立すといえども諸国遍歴の途中にて一ヶ所に止まるを得ず。』と。飄然として去りぬと。

弘法大師(空海)

弘法大師は、宝亀五年(七七四)、讃岐国多度郡屏風ヶ浦(現在の香川県善通寺市)に誕生した。のちに、真言宗を開き、高野山、東寺を中心として一大宗教活動を展開し、我が国で初めての庶民教育の学校を設立した。なお、学芸文化の方面でも、偉大な功績を残しており、三筆の一人と称賛され、また、絵画、彫刻、建築についても優れた知識を持ち、高野山や東寺の造営も指導したのであった。

興教大師(覚鑁)

興教大師は、嘉保二年(一〇九五)、肥前国藤津荘(現在の佐賀県鹿島市・誕生院)に生まれる。幼い時に父と国司との争いを見て発心し、十歳の時に父を失い、入道の志を固め十三歳の時に出家す。のち、弘法大師の教えに感銘し、大師入定の地、高野山に憧れ、十数年後念願の高野山に入山す。そして荒廃した高野山の再興・弘法大師教学の復興を発願し金剛峯寺座主をつとめるに至る。その後、根来山に移り、新義派を創立、その祖と仰がれる。また、新義派は、智山派、豊山派に分かれ、弘法大師を宗祖、興教大師を派祖とした。

本尊（不動明王）

不動三尊は右側に矜羯羅童子、左側に制吒迦童子を従える。右手の利剣は、貪（むさぼり）瞋（いかり）痴（おろか）の三根本煩悩を断ち切る剣であり、また、左手の羂索は、五色の線で配合され、それぞれ、信仰の力・努力の力・憶念の力・瞑想の力・智慧の力を表す。これは、助け合い、つくし合いの意である。

記載日：2014/4/5

この内容は、「大應寺のパンフレット」と「郷土富士見検定問題集」、「富士見市史」、「富士見のあゆみ」、「ふじみの伝説・昔ばなし」等から、記載しています。

↓次のページに桜風景の写真を貼付ました。↓

ついでの桜風景（大應寺）